

## 「医療に関する国民意識調査」

### —調査結果報告の要旨—

健康保険組合連合会

健保連は、平成 19 年 9 月に引き続き本年 7 月に、国民の皆様にも医療問題について幅広くアンケート形式による意識調査を実施致しました。この度、結果を取りまとめましたので、ご報告致します。

#### 1. 医療機関の受診のあり方 (P8 図表 2-2-11~P12 図表 2-2-24)

日頃から決まった医師・医療機関を受診している人は 69.4%に達し、病気になるといつも相談する医師がいる人の約 9 割が診療所を受診。「最初に決まった医師を受診し、医師の判断で必要に応じて病院等を受診する」に賛成する回答が 56.7%と過半数を占めた。また、賛成の人も登録医制のような厳格な方法には 60.1%が不安を感じているが、前回調査の 79.3%から大幅に減少した。

日頃から決まった医師ないしは医療機関を受診している人が回答者全体の 69.4% (前回 73.0%)、また、病気になるといつも相談する医師がいる人のうち、88.3% (前回 82.8%) の人が一般診療所を受診しています。かかりつけ医への期待は「自宅から近く、病気や治療についてよく説明し、人柄が良い」こと。

医療機関の受診のあり方については、「最初に決まった医師を受診し、医師の判断で必要に応じて病院等を受診する」という考え方に賛成する回答が 56.7% (前回 53.0%) と過半数を占めました。また、賛成した人でも、一般診療所の医師を事前に選んで登録しておき、最初にその医師を必ず受診し、救急以外では病院を自由に受診できないといった厳格な方法には「不安を感じる」との回答が 60.1%を占めていますが、前回調査 (79.3%) に比べると大幅に減少し、「不安を感じない」が 34.0% (前回 11.7%) に増加しています。

#### 2. 医療への満足度 (P25 図表 2-4-1~P27 図表 2-4-4)

「不満」を持つとの回答が前回調査時より約 15 ポイント増えて 62.9%に上り、「医療機関への要望がある」との回答は 90.0%に達している。「待ち時間を短く」「病気の状態や治療法の説明」「専門医療機関の紹介」が要望の上位に。

現在の医療の満足度については、「不満」を持つとの回答が 62.9% (前回 47.1%) に上り、「医療機関への要望がある」との回答は 90.0% (前回 79.7%) に達していま

す。医療機関への要望の内容としては、「待ち時間を短くしてほしい」（68.1%、前回70.2%）、「病気の状態や治療法をよく説明してほしい」（54.6%、前回53.4%）、「難しい病気のときは、専門の医療機関を紹介してほしい」（42.8%、前回36.5%）が上位にあがりました。

また、今後の医療のあり方として希望することについては「医療従事者の確保・育成」（66.0%、前回71.5%）とともに、「夜間・休日の救急医療体制の整備」（45.0%、前回64.1%）、「高度な機能を有する医療機関の整備」（44.9%）が上位にあがっています。

### 3. 医療費について（P29 図表 2-4-7~P32 図表 2-4-15）

国民医療費は「高い」が65.2%、国民の負担については「重い」が74.1%に上っている。医療費をまかなう方法は「税金」、「患者負担」で、「保険料」は大幅に減少した。抑制方法は「ジェネリック医薬品」と「病気の予防」。

わが国の国民医療費については、「高い」との回答が65.2%（前回71.9%）に及んでいます。

また、医療費の国民負担が「重い」との回答は74.1%（前回79.3%）に上り、特に「保険料が高すぎる」との回答が53.7%（前回62.2%）で最も多くなっています。

増加する医療費をまかなう方法としては、「税金」（34.9%）、「患者負担」（26.5%）の順で、前回調査（27.6%、5.6%）と比べ大きく増えています。一方、「保険料」は前回の17.5%から10.3%に大幅に減少しています。

「医療費を抑制するには？」という問には、「ジェネリック医薬品の普及」（65.5%、前回60.9%）との回答が最も多く、次いで「特定健診・保健指導等による病気の予防」（43.3%、前回53.5%）となっています。

### 4. ジェネリック医薬品について（P33 図表 2-4-16~P36 図表 2-4-24）

ジェネリック医薬品の認知度、服用経験とも大幅に上昇しており、効き目や安全性も高い割合で評価されている。服用のきっかけは「薬剤師にすすめられた」が1位。

ジェネリック医薬品の認知度（94.9%）、服用経験（47.4%）とも、前回調査時（74.4%、17.6%）から大きく伸びており、効き目や安全性も高い割合で評価されています。また、ジェネリック医薬品を服用するきっかけとして「薬剤師にすすめられた」（41.0%）が最も多く、逆にジェネリック医薬品を服用しなかった理由として、「薬剤師にすすめられたことがない」が30.6%（前回52.5%）で第2位（第1位は「病気をしないため」）となっています。

5. **明細書発行義務化について** (P39 図表 2-4-31~P41 図表 2-4-36)  
「知っている」が 53.5%と過半数に達し、69.7%が必要性を認識している。

明細書発行義務化の認知度は 53.5%であり、明細書を受け取ってよかったこととして「医療費の内訳がわかりやすかった」(57.9%)、「治療・検査等の具体名がわかりやすくなった」(50.8%)が上位にあがっています。また、明細書の必要性については 69.7%が「必要だと思う」と回答しています。

6. **医療保険者への満足度** (P43 図表 2-4-41~P44 図表 2-4-42)  
健保組合は共済組合に次いで 2 位。今後、充実を希望するサービスは「医療費の補助」、「医療機関情報の提供」、「ジェネリック軽減額通知」。

各医療保険者への満足度を、回答者が所属する医療保険の管掌別にクロス集計したところ、健保組合加入者の満足度は共済組合に次いで高くなっています。また、充実を希望するサービスについては「医療費の補助」(30.5%、前回 38.6%)、「医療機関情報の提供」(23.3%、前回 39.0%)、「ジェネリック軽減額通知」(22.9%)などが上位を占めています。

7. **介護サービスへの満足度、療養したい場所**  
(P14 図表 2-3-1~P23 図表 2-3-17)  
現在の介護の状況に対して 62.5%が「不満」。ただし、実際に家族が利用している介護サービスに対しては、6~7割が「満足」。高齢期に寝たきりになった場合に希望する療養場所は、「自宅」が 22.6%と最も多く、「病院」は 8.0%と少数。

介護サービスについては、「やや不満」と「かなり不満」を合わせると 62.5%に及んでいます。ただ、実際に家族が利用している介護保険サービスに対しては、居宅系サービス、施設系サービスともに、6割から7割の人が満足していると回答しています。

本人が高齢期に寝たきりになった場合に希望する療養場所については、「自宅」(22.6%、前回 33.0%)が最も多く、次いで「老人保健施設」(16.0%、前回 11.5%)、「特別養護老人ホーム」(15.3%、前回 12.0%)となっており、「病院」は少数(8.0%、前回 14.3%)です。

増加する介護費をまかなう方法としては、「税金」(33.4%)、「利用者負担」(27.2%)の順で、「保険料」は 9.3%と低くなっています。

(注) 四角囲み以外の記述で、前回数値の記載がない項目は新規のものである。